

## 17～18例目の新型コロナウイルス感染症の発生について

今般、福岡市内で17～18例目の、新型コロナウイルス感染症の患者が確認されました。

### 【17例目】

#### 1 患者の概要

- (1) 年齢・性別等 ・20歳代：女性（福岡市南区在住）
- (2) 症状等 ・なし
- (3) 職業 ・無職
- (4) その他 ・最近の海外渡航歴なし

※患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内での報道をお願いします。

#### 2 患者確認までの経緯

- ・3月29日、陽性者の濃厚接触者として、帰国者・接触者外来を受診し、PCR検査実施。
- ・3月30日、検査の結果、陽性であることが判明。感染症指定医療機関へ入院。

#### 3 患者行動歴

- ・調査中。

#### 4 濃厚接触者

- ・同居の家族はPCR検査結果、陰性。
- ・その他の濃厚接触者については、調査中。

### 【18例目】（17例目の子）

#### 1 患者の概要

- (1) 年齢・性別等 ・1歳未満：女性（福岡市南区在住）
- (2) 症状等 ・発熱38℃台（3月30日朝より）
- (3) 職業 —
- (4) その他 —

令和2年3月30日  
北九州市 保健福祉局 保健衛生課  
(担当：河崎、渡邊)  
電話：093-582-2430

## 新型コロナウイルス感染症患者（4例目）の発生について

市内において、4例目となる新型コロナウイルス感染症の患者を確認しましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

- 1 概要 令和2年3月30日（月）、市内A医療機関から北九州市保健所に新型コロナウイルス感染症の疑い患者について相談があり、北九州市保健環境研究所にて検査を実施したところ陽性と判明した。
- 2 患者情報
  - (1) 年齢、性別等 60歳代、男性、小倉北区在住
  - (2) その他 海外渡航歴や新型コロナウイルス感染症患者との明確な接触歴は不明。
- 3 経過
  - 3月23日（月） 基礎疾患治療のため、市内A医療機関に入院。
  - 3月27日（金） 発熱（37℃台）あり。
  - 3月28日（土） 解熱（36℃台）。
  - 3月29日（日） 発熱（39℃～42℃）あり。  
市内A医療機関から本市保健所に相談あり。
  - 3月30日（月） 本市保健環境研究所におけるPCR検査の結果、陽性が判明。
- 4 現在の状況 市内A医療機関に入院中  
(状態は安定しているが、基礎疾患の影響で話ができない)。  
転院先を調整中  
(基礎疾患があり、その管理と感染症治療ができることが条件)。
- 5 行政対応 患者に対する健康調査（行動歴、接触歴を含む）等を実施中。  
市内A医療機関に対する、消毒の指導及び濃厚接触者を調査中。
- 6 患者行動歴 行動歴は調査中。
- 7 濃厚接触者 調査中。
- 8 その他 患者等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。詳細が分かり次第、続報にてお知らせいたします。
- 9 新型コロナウイルス感染症について  
別添参照

## 《新型コロナウイルス感染症について》

### ➤新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症については、2019年12月以降、新型コロナウイルス感染症の患者が複数報告され、中国国内で感染が拡大しており、2020年1月16日以降、日本においても患者の報告が増えています。国は、水際での対策を講じてきていますが、国内の複数地域で、感染経路が明らかではない患者が散発的に発生しており、一部地域には小規模の患者クラスター（集団）が把握されている状態になっています。

### ➤症状や治療

国内の事例では、発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いようです。感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれています。

このウイルスに特に有効な抗ウイルス薬などはなく、対症療法を行います。

軽症で、治癒する方も多いですが、肺炎が重篤化した場合は、人工呼吸器など集中治療を要し、季節性インフルエンザよりも入院期間が長くなる事例が報告されています。高齢者や基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患など）を有する方では、重症化するリスクが高いと考えられています。

### ➤感染経路

「飛沫感染」と「接触感染」の2つが考えられます。

#### （1）飛沫感染

感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他者がそのウイルスを口や鼻から吸い込んで感染します。

#### （2）接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付きます。他者がその物を触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触って粘膜から感染します。

### ➤感染防止のポイント

- ・風邪や季節性インフルエンザ対策と同様に、「手洗い」などの通常の感染症対策やマスク着用などの「咳エチケット」に努めましょう。
- ・特に、基礎疾患がある方やご高齢の方は、できるだけ人混みの多い場所を避けてください。
- ・発熱等の風邪症状が見られるときは、学校や会社を休みましょう。